継続を力に新たな挑戦 インフラ充実へ

上遠野修 城里町長 4期目就任インタビュー



■プロフィール　1978年生まれ48歳。趣味は家族旅行で、最近では東京旅行を楽しんだ。健康維持のため、ランニングも続けている。町について「子どもを伸び伸びと育てるにはいい町だと思う」と話す。治安も良く、地域全体で大人の目が子どもたちに届いていることが町の良さだという。「子どもを安全に、伸び伸びと育てられる環境を大切にしながら、4期目も道路や下水道、河川、公園などのインフラ整備を着実に進め、町全体をより良くしていきたい」と語る。

城里町の上遠野修町長が4期目の町政をスタートさせた。就任から3期12年、河川や道路などのインフラ整備を着実に進めてきた上遠野町長は、4期目を新たな「挑戦」の4年間と位置付け、「継続は力なり」の姿勢で町政を前に進める。町最大の事業となる磯野地区の下水道・道路改良の一体整備をはじめ、かつら地区の「かわまちづくり」や道の駅周辺整備、石塚地区の公園整備など、地域基盤の充実に取り組む考えだ。

4期目就任の抱負・意気込みについて

町長就任から3期12年、河川整備をはじめ、着実にインフラ整備を進めてきた。河川整備では、台風などの際にも水害や氾濫が起こりにくい環境づくりにつながった。また、通学路の道路整備についても、何十年間も課題となっていた箇所の用地交渉を進め、整備を形にすることができた。

これまで町政は1期、2期で終わることも多かったが、数十年ぶりに3期を全うすることができた。その成果として、長期的な視点に立った着実なインフラ整備を実現できたと考えている。

4期目は、これまで進めてきた取り組みをさらに前に進めていく「挑戦」の4年間になる。町全体を動かしながら、必要なインフラ整備を着実に進めていきたい。

主な建設事業への取り組み

【磯野地区での下水道・道路改良の一体整備】

最も大きな事業の一つが、磯野地区の下水道整備と道路改良を一体的に進める事業になる。下水道整備で最後に残っていた磯野地区について事業採択を受け、現在、設計を進めている。設計がまとまり次第、工事に移行していく。

これまでは下水道と道路改良をそれぞれ進めてきたが、磯野地区では両事業を一体的に実施する。下水道を整備する区域では、先行して用地取得を進め、道路改良の計画も組み込んでいる。下水道の整備に合わせて道路を拡幅・改良することで、地域の基盤整備を効率的に進めていく。

現在は、すれ違いが難しいような細い道路沿いに住宅が立ち並んでいる地域だが、道路改良と下水道整備によって、安全で快適な住環境に変えていきたい。4期目の4年間で、磯野地区の基盤整備を着実に進めていく。

【かつら地区かわまちづくり】

道の駅かつらの完成は、あくまで一つのステップであり、今後も周辺のインフラ整備を継続していく。8月には「かわまちづくり」の計画登録を国土交通省から受けたので、今後は親水空間の整備などにも取り組んでいく。

那珂川に注ぐ皇都川には橋を架け、河川敷の桂運動公園や道の駅かつら、地域の活性化拠点としていきたい。

県発注の国道123号那珂川大橋架け替えや、国発注の親水空間整備、かわまちづくり関連工事、町発注の道路や広場の整備など、今後さまざまな工事が連続して進んでいくことになる。橋の架け替えに伴う町道や県道の付け替えなど、アクセス道路の整備も必要になる。4年間だけで終わる事業ではなく、その先も見据えて取り組んでいきたい。

【「道の駅かつら」移転整備（2期工事）】

新しい道の駅かつらが、町の新たな拠点としてスタートした。1階には地元農産物や特産品を扱う直売所、2階には那珂川を眺めながら食事を楽しめる洋食レストランやそば店を設けた。焼きたてパンやピザ、パスタなど、これまでになかった魅力も加わり、買い物だけでなく食事や滞在も楽しめる施設になったと思う。

ただ、道の駅の完成がゴールではない。もともと那珂川大橋の架け替えを進めるために道の駅を移転したものであり、橋梁工事を円滑に進めるための旧施設の解体のほか、オートキャンプ場や駐車場などの整備も進めていく。

道の駅で買い物や食事をして終わりではなく、那珂川や御前山の自然を生かして、滞在して楽しめる場所にしていきたい。

【残土処理場跡地の公園整備】

石塚地区の残土処理場跡地に、約3000㎡の公園を整備する。四季の美しさを感じられる町民の憩いの場とするとともに、災害時には一時避難場所として活用できる防災機能も備える。

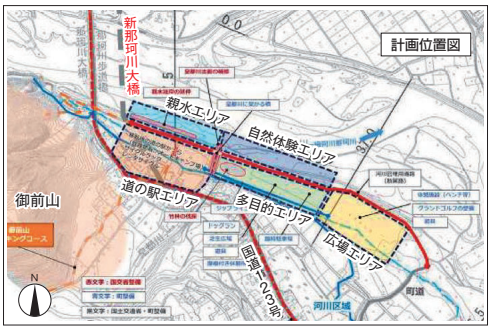
現在、設計を進めており、早ければ本年度後半、遅くとも来年度ごろから工事に着手できればと考えている。

町内には学校やグラウンドなどはあるが、ある程度まとまった規模の公園はこれまでなかった。新たな公園が整備されることで、子どもたちが伸び伸びと遊べる場所になるほか、町民の憩いの場、防災拠点としても活用できる。町にとって新たな公共空間となるよう、整備を進めていきたい。

地域の建設業者に向けたメッセージ

インフラ整備や災害対応などを着実に行っていくためには、地域の建設業者の力が欠かせない。これからも技術力、施工力をしっかりと維持し、さらに高めていってほしい。

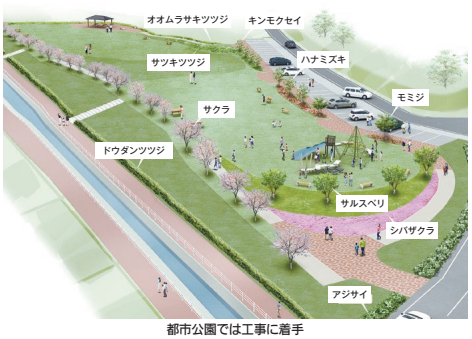
町建設業協会とは災害協定も結んでおり、災害時には地域の建設業者の対応力が重要になる。町としても、公平・中立・誠実な行政運営を続けながら、必要な公共事業を着実に進めていく。平時のインフラ整備から災害時の対応まで、地域の安全・安心を支える担い手として、引き続き力を発揮してもらいたい。



6万㎡5エリアでかわまちづくりを推進



初登庁では気持ちを新たに



都市公園では工事に着手



9月15日には道の駅かつらの完成を祝った

城里町と災害協定を締結

城里町建設業協会

会長	関根一利	監査	奥野成文
副会長	大竹章司	会計	金長英樹
監査	大座畑道人	顧問	松崎信一

㈲東海組	㈱常陸建設工業	㈱桐原工務店	㈲大座畑建設	澤田建設㈱
常北建設工業㈱	鈴和産業㈲	関口工業㈱	大洋工業㈱	
㈲大竹建設工業	㈱河原井	㈱金長設備工業	㈱三陽造園土木	